



下っ端社員はいつの世もつらい

安中市の天然記念人物

私は大学卒業後、社会に出てから十年と経たない間に三度も転職をしています。これは、そんな私がこれまで体験してきた事のごく一部分ですが、働いている方・これから働こうと考えている方の参考に少しでもなればと思います。

パソコン大嫌いだった私が心機一転 「情報」の教師に

まず初めに、私は大学時代、パソコンを使った授業が大嫌いでした。授業中、自分の思うように操作ができず、一時期はパソコンを見ただけで吐き気がする時期もありました。

そんなある時、私はふと思いました。「自分のように苦手分野で苦しんでいる人が他にも絶対いるはずだ。授業で一番苦勞している自分なら他の人よりも分かりやすく・辛抱強く人に教えることができるのではないかと。こうして私はその信念を胸に努力し、大学卒業と同時に「情報」という、自分が最も嫌いだった教科の教員免許を手に入れることができたのです。

卒業後は教員になりたいと思っていた私はまず、卒業式の半年前に私立教員採用試験を受けました。ここでも、試験の申込用紙を採りに前橋市に出た所、知らない道で警察から一時停止違反で罰金を取られたり、試験後、大学のキャリアサポートセンターから「情報一教科だけじゃ、どこも採用してもらえないよ」と言われ、目の前が真っ暗になったりと散々な出来事がありました。そのような苦勞があったからか、卒業式の一か月前に高崎市内の私立高校から「非常勤講師でよければうちに来てくれないか」

と声をかけて頂いた時は本当に嬉しかったです。私はその場ですぐに返事を返し、私は見事、第一志望である教員の第一歩を踏み出したのです。

転職～就活の苦勞

ここで、そんな私が何故転職をしたのかと言いますと、早い話が期限付き（カリキュラムの変更のため最長三年）採用だったからです。この話を両親にした際に私は「とりあえず三年頑張ってみて、正規で雇ってもらえる所を見つけられなければ、教員はすっぱりあきらめる」と伝えました。結果から言えば、他校からまた非常勤講師の電話を頂きましたが、住んでいる場所から遠いことと非常勤講師から正規職員になるには難しいという話だったので、私はこの場でお断りし、頭を切り替えました。

来年から職がないという恐怖を抱いた私



はまずはハローワークに通い、情報収集と企業を紹介して頂きましたが、なかなかこれと言ってやりたい仕事が見つけれず（見つけても企業側から「これは女性の仕事なので…」と言われ、断られることが多かった）大変苦労したことを覚えています。この時私は「男が働きにくい世の中になってきたな」と思いました。

ある日ハローワークで

30社近く不採用が続いたある日、ハローワークの求人で、自分が住んでいる安中市の行政嘱託（非正規職員）の募集を目にし、「そう言えば自分が住んでいる地域のことを何も知らないな」と思いました。募集の要項を確認すると、これまで自分が学んで来た事全てが活かせる仕事と分かり、「あれ、これって自分にぜひ受けて下さい、って言っているんじゃない？」と都合よく解釈し、とりあえず面接の申し込みを行いました。すると予感の通り、後日、私の下に待ちに待った採用通知書が届いたじゃありませんか。正直、また非正規なので迷った部分も当然ありました。ですが、両親の「何をやらされるか分からない一般企業の仕事よりは全然良い」の一言で私の心は決まりました。

三年任期の悲哀…二度目の転職

この後、私はまた転職する訳ですが、その理由は「市の法律で行政嘱託の任期は三年までとする」と記載されていたからです。仕事をしていく中でやりがいを感じ、市の採用試験にも挑戦してみましたが（塾にも通った）、任期中に合格できず、またしても就職活動の日々が始まったのです。

次の仕事は市の採用試験と並行で行っていたので、割とすぐにみつけることができ、試験の結果が分かった後にはすぐ返事をしていました。私は大学時代ドライブインで

アルバイトをしていた経験があり、どうせやるなら次は営業をやってみたいと思っていました。

一般企業の営業マンに

一般企業で私が学んだことは一年目でも年相応に評価されてしまうということです。私は「〇〇なんだから」という言葉と「常識」というものが大嫌いです。「市役所で働いていたんだから」「新入職員よりも年上なんだから」「男なんだから」と色々と言われ



ました。

中でも一番私の頭に来た言葉が「社会の常識」です。私の上司となった方はその道四十年らしいですが、一つの仕事（世界）しか見ていない人間に標準（常識）を語る事ができるだろうか？と私は思います。

「報連相はしっかりやれ」と言っておきながら、部下に報告をしないのはなぜでしょうか？それで「話を聞いてない」だとか「理解する気が無い」だとか注意をされても無理があると私は思います。

営業マンのノルマは想像以上に厳しいものがありました。

そして、結局、この仕事も長続きせず、転職することになりました。

最後に、いつの世も下っ端社員はつらいよ。